

シンポジウム

Symposium

都市が里山に関わるということ

森里川海と都市住民

参加費
無料

※ 博物館入館料が必要

申込不要

大阪に限らず、日本各地の中山間地は高齢化と過疎化により里山の維持どころか、

地域の維持そのものが困難になりつつあります。

こうした場所はいずれも生物多様性の維持に重要な地域であり、

地域社会の崩壊は自然保護上も大きな問題です。

生態系サービスなどの里地里山の公益機能を重視した取り組みもありますが、

サービスの受け手である都市住民の理解や意欲が求められます。

改めて、里山の保全に都市に関わる必要性と可能性について話し合いたいと思います。

2017.3.5 [SUN] / 10:00 ~ 17:00

地域自然史と保全研究発表会 : 10:45 ~ シンポジウム「都市が里山に関わるということ」 : 14:45 ~

地域の自然や保全活動についての研究や活動を通して、森里川海の生物多様性を考えます。

会場 大阪市立自然史博物館 本館・講堂

【アクセス】 ■地下鉄御堂筋線「長居」3号出口→東へ約800m / ■JR阪和線「長居」→東へ約1km

主催

関西自然保護機構、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター、大阪市立自然史博物館、大阪生物多様性保全ネットワーク

問合せ

E-Mail 認定特定非営利活動法人大阪自然史センター / bdnet@mus-nh.city.osaka.jp
関西自然保護機構 / konc@mus-nh.city.osaka.jp

TEL 06-6697-6262



本シンポジウムは、環境省平成28年度地域循環共生圏構築に向けた実証地域における活動助成を受けて実施しています。

つなげよう、
支えよう
森里川海

地域自然史と保全研究発表会 関西自然保護機構 2017 年度大会

10:00～

関西自然保護機構総会

10:45～

- 1 「春日山原始林における植物と鳥類の種子散布共生系の保全に向けた研究」
大矢 樹（大阪市立大学大学院理学研究科植物機能生態学研究室）
- 2 「絶滅が危惧され、日本に固有分布するヤシャゲンゴロウの保全遺伝学的解析」
加藤雅也（京都大学大学院農学研究科）
- 3 「三重県大台町における水田の管理方法と水生昆虫群集構造の関係」
小西功泰（大阪産業大学人間環境学部生活環境学科）
- 4 「由良川水系において同所的に生息するメダカ2種の生殖的隔離の実態解明」
入口友香（近畿大学大学院水圏生態学研究室）
- 5 「環境DNA法を用いたイバラモ属植物の分布調査」
藤原綾香（神戸大学人間発達環境学研究科）
- 6 「コクチバス侵入初期段階の木津川における魚類相およびコクチバスの食性調査」
高松真也（近畿大学農学部環境管理学科水圏生態学研究室）

12:45～13:45

ポスター発表 コアタイム

13:45～

記念講演

四手井賞授賞式典・記念講演「淀川河口域におけるアユ仔魚の出現」
大美博昭氏・日下部敬之氏（大阪府立環境農林水産総合研究所）

[シンポジウム] 都市が里山に関わるということ 森里川海と都市住民

14:45～

- 1 「趣旨説明」
佐久間大輔（大阪市立自然史博物館）
- 2 「里と都市をつなぐ 保全と地域経済をつなぐ試み」
飯山直樹（(一社)かみかつ里山倶楽部）
- 3 「大阪府内の重要里地里山と生物多様性ホットスポット、保全策は何か」
上原一彦（大阪府環境農林水産総合研究所）
- 4 パネルディスカッション
進行：佐久間大輔、パネラー：天満和博（大阪自然史センター）・
大住克博（鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター）ほか